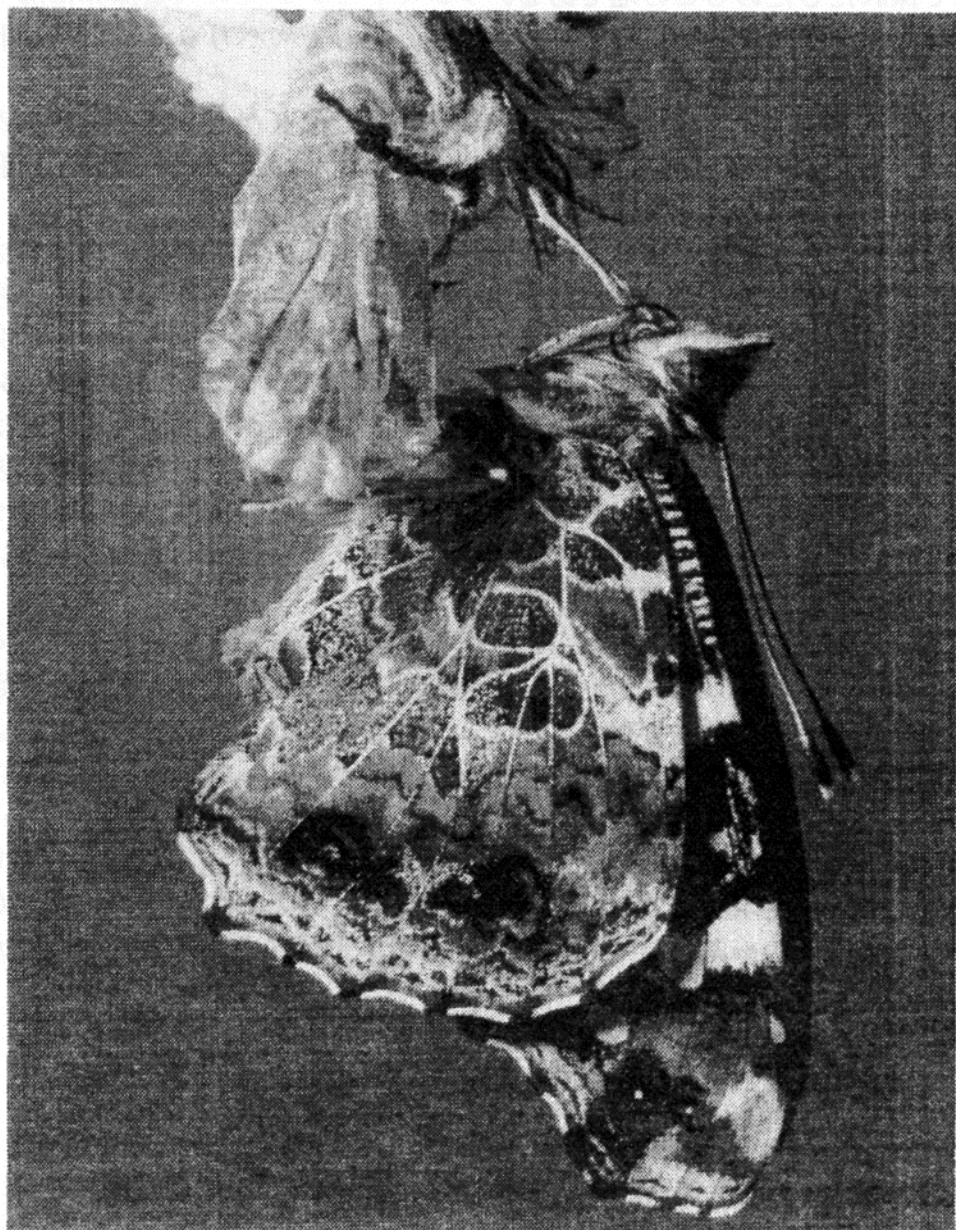


翔

NO.73

'88 OCTOBER



Butterfly

Beetle

Insect

百万石蝶談会

1988白山釈迦岳、キベリタテハは豊作か

松井正人

釈迦岳のブナ帯を縫って走る釈迦林道は、県内屈指の好採集地であろう。かのヨコヤマヒゲナガカミキリはほとんどはこの地で得られ、ヒメオオクワガタが県内で採れだしたのもこの地である。フジミドリシジミの大量採卵に沸くのも、アサギマダラの大集団に目を見張るのも、そしてキベリタテハにネットを振るのも、この林道である。

林道はブナ帯を抜け、標高 1400mの終点付近ではダケカンバが見られるようになる。林というほどのものではなく、大木がポツポツ立ち並び、周囲に5~6m以下のものが見られるだけである。

8月21日に、たまたま1本のダケカンバがまる裸なのに気が付いた。葉は付いていると言っても良いのか、魚の骨状になった葉脈だけが残っている。枝には多数の脱皮殻がはり付いていた。良く見れば、となりのダケカンバも半分程が魚の骨になっている、『1本食べつくしたキベリタテハが隣の木に乗り移り、半分食べたところで蛹化した。』と読んだ。さらに『この木の回りを捜せばヒオドシの蛹のようにブラブラに下がった蛹群が見つかる。』とも読んだ。ところが読みは全く外れ、どれだけ這いつくばって捜しても、蛹はひとつも見つからなかった。周辺には似たような木が何本もあり、ものは試しと何度も蛹に挑戦してみたが、結果は同じだった。

そんな中に、まだ幼虫の木もあった。5~6m前後の小さい木は食べつくされ、幼虫は隣の木に乗り移っていた。大木では張り出した1枝が食べつくされないまま、たくさんの幼虫が付いていた。大きな終齢幼虫が身体を寄せあい、時々ビクンビクンと震えるのを見ていると、蝶の幼虫じゃ無いような錯覚に陥ってしまう。

毎年、釈迦林道に来ているが、キベリタテハの幼虫を発見したのも初めてなら、十数本もの発生木なんてなおさら初めて。ひょっとして今年は大発生なのかも知れない？ な~んちゃって。実は今まで気が付かなかっただけなのかも知れない。

キベリタテハ終齢幼虫 多数目撃

1988年8月21日 白峰村白山釈迦林道(標高1400m) 松井正人

医王山産 クワガタ 採集難易度

Bランク(珍)	コルリクワガタ
Cランク(少)	ヒラタクワガタ、アカアシクワガタ
Dランク(普)	ノコギリクワガタ、コクワガタ ミヤマクワガタ、スジクワガタ

1988 乗鞍にて

勝海雅夫

7月28日、雨中の金沢を早朝5時に出発。黙々と乗鞍へ向けて走る。途中41号線、神岡辺りまで来たときには、「新穂高の左俣谷で、天気回復を待ってオオゴマシジミでも採集しようか」などと考えるほど、ガスが山麓の山々に低く垂れ込めていた。その天気が、なんと平湯付近まで来たときには、すっかり晴れ、ましてや陽が差す回復ぶりである。

趣味の都合で多忙な月末に休みを取るなど、入社以来初めての大事業。尚かつ、ここ数日あまりパツとしない天候。満を持しての出発が、天に通じたのかどうか？ 驚喜のおももちで安房峠を越え、上高地・乗鞍林道に入る。林道沿いの岩場にてツマジロウラジャノメを目撃。ガレ場には7～8頭の個体が飛んでいる。♀は羽化したてで、ここ数日の雨で発生が遅れているようだ。例年では7月20日前後がピークの筈だ。

更に、車を乗鞍へ向けて走らせ、林道沿いのヒヨドリバナで、オオゴマシジミが吸蜜しているのを観察。この林道沿いには、多数発生している所は無く、4～5頭程度の小さな所が4カ所程ある。ただし、安房峠より下方及び、林道の浅い谷筋等は未調査で、今後の調査も興味深い。オオゴマシジミは2♂2♀観察したに過ぎない。どうも発生初期のようだ。

白骨温泉付近の草付きで、キバネセセリの大量訪花を昨年山本直樹氏と確認しているが、今夏は4～5頭程度で今ひとつ。スモモにはあいかわらずオオミスジが数頭巡回していたが、カラスシジミは見られない。カラスシジミは、乗鞍高原で多数発生しているのを昨夏確認しており、そちらに回ることにする。

蛭窪トンネルを抜けてヤマナランの木々が目立ち初める頃、林道沿いや山腹の草地にてオオイチモンジの飛翔を観察する。天気は晴れ時々曇り無風、他の虫屋さんは不在で、絶好の観察日和。その甲斐あってか、4～5頭のオオイチモンジを目撃し、2♂1♀は間近で観察する。特に♀は羽化したての完全な個体。10時頃、虫屋さんに出会う。東京から塩尻までは小雨だったそうで、まさか晴れるとは思わなかったらしい。それにしても、ここ数年の発生からして今夏は発生個体が少ない。

昼頃、カラスシジミの乗鞍高原に着く。料金所ゲートを過ぎてすぐ右折し、300m程走ると草付きや畑沿いにスモモが点々とある。この辺りの木で発生を確認。午後1時、♂のテリトリー行動を観察。京都のキマルリと良く似た飛翔とつくづく思う。特に晴れた日には訪花性があり、ヒメジョオンなどの白い花に来るようだ。オマケにウラゴマダラも1♂2♀を目撃。

乗鞍高原のスモモには、カラスシジミは多かれ少なかれ発生していると考えても良さそうである。会員の方々も一度訪れてみてはいかがでしょうか？

関西ギフ物語

吉岡 泉

かつて、毎年春先ギフチョウのシーズンともなると、なんとなくそわそわしていた彼も、関西にトレードされてからここ数年は、仕事が忙しかったためか（それとも、体力の限界からか）、かの有名な『ギフチョウ88か所めぐり』を片手に、週1回の採集に出かけるのみであった。

4月上旬、行けば必ず採集できる北陸地方のギフとは違って、関西のギフは珍品中の珍品であると言っても良い。従って、休日のみの採集では1シーズンに行けるポイントの数は知れている。ましてや1つのポイントで必ず採集できると言う保証など全く無く、良くて2回に1回くらいしか採れない。これは、過去4年間、ポイントマップを片手に1年で1番胸ときめく時期を無駄にした悲しい男の物語である。

1. 第五十四番『龍門ヶ岳』

1985年4月20日。彼は、奈良県吉野郡下市町に住む友人宅に遊びに行こうと地図を広げていると、ふと「龍門」の文字が目にとまった。一瞬虚ろな彼の記憶の中から、「龍門…で南限のギフが採れる」という言葉が脳裏をかすめた。彼は、友人の家に行く前にちょっとだけ寄り道をするつもりで、地図を頼りに目的地を目指した。

三津の集落より尾根への登りとなる。小さな神社を過ぎると、全国でも有数の銘木で知られる吉野杉の植林地帯が続く。しかし、杉の大木が鬱蒼と繁る環境に、彼は「とてもギフが飛びそうじゃ無いし、そう言えば南限は確か和歌山県だった！」と勝手に理屈をつけて早々に引き上げた。勿論、ギフの南限は和歌山県の龍門山（今はもう絶滅したと言われるが…）であり、「龍門」違いだった。

しかし、翌年『88か所めぐり』を手に入れた彼は愕然とした。彼は、ギフのポイントまでもう少しの所まで来ていたのだった。かくして彼の関西移籍後の第1打席は、見逃し三振だった。

2. 第五十三番『子夫』

1987年は、関西のギフを採りたい一念で、彼は朝6時起きで電車にゆられ、近鉄長谷寺駅から徒歩で1時間の道程を3度通った。

4月12日(日)曇り。ようやくポイントにたどり着いた彼は、季節はずれの寒風に思わず身震いした。寒さのためか、ギフどころか蝶の姿すら見かけない。関西ではわりと有名なポイントのためか、他に採集者が3~4名いたが、皆寒そうにしていた。午後2時頃まで待ったが、ついに頼みのお陽様も顔をだしてはくれず、ギフは姿を見せなかった。

4月14日(火)快晴[気温15度]。何としてもギフ欲しさに、ついに有給休暇を取って再挑戦。さすがに平日とあって、他に採集者はいない。しかも気温は少々低い、雲ひとつない快晴だ。

待つこと約2時間。午前11時40分、杉林の中にたたずむ彼の目の前に咲いているスマレの花に、せわしなく飛んできた一頭のギフが吸蜜の為羽を休めた。彼は、まるで初めてギフを採るかのように、震える手でネットを振った。

「やった！ ついに採った。」

この日午後2時頃にも、ススキの上を飛んで行く一頭を見つけ、すぐに追いかけてネットを振ったが、ものの見事に空振りだった。

4月18日(土)快晴。気温は、14日より高く絶好のコンディション。2匹目のドジョウならぬ2匹目のギフを狙った彼は、張り切って家を出た。前回と同じポイントに陣取った彼は、スマレの前でひたすら待った。今回は、他に2~3人来ている。狭いポイントだけに負けられない。温かい日差しが時折眠気を誘う。待てども待てどもギフは姿を見せない。午後4時まで粘ったが、コツバメがススキの上で羽を広げるだけで、ついにギフは現れなかった。

こうして、1987年の彼の記録は、一頭のみであった。

⇒1978年4月14日(火) 奈良県桜井市小夫 ギフチョウ 1♂

3. 第五十七番『岩橋山』

1988年は全国的に暖冬で、例年4月上旬発生する地方では、3月の下旬に発生するなど出足が早い。きっと関西でも早くなるだろうと、甘い考えを持った彼は、少し早い4月3日より採集活動を開始した。大阪ナンバーのギフが欲しかった彼は、岩橋山に挑戦することにした。

4月3日(日)晴れ。国道166号線で大阪と奈良の県境にある竹内峠を越え、一旦奈良県側に入る。峠を少し下ると、右手に農業用の溜池がある。ここで右折し、曲がりくねった農道を道なりに進むと、平石と伏越の分岐に出る。ここで車を止め、ポイントマップにある伏越を目指す。急坂を徒歩で登るが、距離の割にこれが以外ときつい。日頃の運動不足がたたってか、途中休憩をとりながらとなる。岩橋山への分岐を捜すが全く分からず、そうこうしているうちに、伏越に着いてしまった。伏越のポイントで、高校生風の採集者がいたので様子を聞いてみたが、ギフは全く飛んでいないとのこと。満開の桜ばかりが、目に鮮やかだった。

4月10日(日)晴れ。1週間前と同じ道をたどったが、やはり伏せ越までは全然姿無し。引き返す途中、杉林の急斜面に向かって1本の踏み跡程度の道を発見。半信半疑で登ってみるが、2m登っては1mずり落ちるといった急傾斜。ようやくのことで尾根筋まで登り着きしばらく行くと、何と「岩橋山山頂」の立札あり！ 捜し求めていたポイントに、偶然出てしまった。天気も好いし、絶好のギフ日和。まずは、「腹が減っては戦ができぬ」とばかりに、早速弁当をひろげた。すると、どこからやって来たのか、1人の虫屋さんらしき人が声をかけてきた。彼は、地元大阪の人で、毎年ここにやって来るらしい。彼の話によると、例年20日頃がピークで時期的にはまだ少し早いとのこと。個体数は

かなり多いらしい。午後から少し風が強くなり、彼は「今日は、もうダメみたいですね。」と言い残して去っていった。結局この日は1頭も見かけることはできなかった。

4月16日(土)晴れ。今度こそは…との意気込みで、3度目の岩橋山詣で。一気に尾根筋まで登り、見通しの良い位置に陣取る。しばらくすると採集者が、1人2人と増えてくる。ここは、ギフより採集者の方が多いようだ。これはうかうかしていると、1頭も採れないぞと気を引き締める。一時して、「採った！」と言う声が向こうで挙がった。どうやら一頭目がネットされたようだ。その後、あちこちで数頭採れたようだが、こちらはさっぱり採れない。お昼を過ぎ、また風が出てきた。ここは、午後から決まって強い風が吹くらしい。地元の採集者はよく知っているのか、風が出てくるとともに帰りはじめ、1時過ぎ、とうとう1人になってしまった。荷物をまとめ下山の準備をし、ネットを片手に帰路に着く。道が下りにかかった時、黄色い影がこっちに向かって飛んでくるのが目に入った。もしかしたら…という思いと、ネットを振るのが同時だった。白いネットの中で羽をばたばたさせているのは、まぎれもなくギフだった(少しボロだった)。ついに大阪ナンバーのギフを仕留めた瞬間だった。

⇒1988年4月16日(土) 大阪府南河内郡太子町岩橋山 ギフチョウ 1♂

4. おわりに

関西のギフは、いずれの生息地においてもその個体数は極めて少なく、従って採集ポイントでは、ギフそのものよりも採集者の方が圧倒的に多いこともある。そんな状況の中で、1頭のギフを得るということは、非常に感動に値することである。さて来年は、どこに挑戦しようかなあ…?

ある日、標本箱を見ながら思うこと

指 田 春 喜

蝶の採集をはじめて25年になる。この間、全くネットを持たなかった年もない訳ではないが、チョウチョウに対する思いは衰えることを知らず、最近益々熱くなっている。

蝶に限らず、昆虫類の採集を趣味(それ以上の会員も多いようであるが)としている者は、他人の持っていないもの、美麗種、珍稀種を他人より早く、箱一杯に並べることを、究極のこととしているはずである。これは私がそうであるので、他人もそうであろうと、勝手に思い込んでいるのであるが、いかがであろうか。

しかしながら、より多くの標本を集めるという目的は同じでも、その手段、方法は人により少しずつ違っているようである。つまり、収集(採集)に対する哲学の違いにより、『その意義をどこに求めるか』ということになる。私の場

合、極端に言うと、私自身のネットで、その種類の成虫を採集することだけに意義を認めている。であるから、私のコレクションのうち本邦産、220種に近い70箱は成虫を採集したものである。よって、ゼフィルスなどのコレクションは誠にお粗末、貧弱なものである。ボロの雄が少々なんていう種も有り、ピカピカのAB型の雌などは、ほとんど我がコレクション中に見出すことは出来ない。しかし、尾状突起が無くとも、前翅が少々擦れていても、飼育品とは全く違った素晴らしさが採集品にはあるのです。この点は万人が認めるところであろう。

「ⅩⅡ, 27, 1970. 鹿児島県屋久島小杉谷」のラベルを付けたヤクシマルリシジミ。当時、この尾状突起が極端に短く、アイノミドリよりも強く金緑色に輝くゼフは、キリシマミドリの屋久島亜種というよりも、「ヤクミドリ」といった方が通りが良く、かつ一般的であった。本邦産ゼフの中にあり、唯一生活史の解明されていなかったヒサマツミドリと共に収集家垂涎のものであった。横山光夫著「原色日本蝶類図鑑」(保育社・昭和37年発行)には、『わが国に産する「みどりしじみ」(この頃の本には、蝶の名前がひらがなで記されているものが多い)中、最も稀種として本種はその標本すら見ることは随意ではない。1922年7月22日、初めて屋久島において発見され、その後多くの同好者が同島に採集を試みているが、採集されたものは数頭に過ぎず、たまたま我が国に飛来する迷蝶と異なり、名実共に「珍中の珍種」である。……東洋特産の「絶品」として恥ずかならぬ名蝶である。以下略』などと記されている。冬期の採卵方法が、今日程知られてなかったその当時では、上記の表現は少しもオーバーではないのであった。

ちなみに、ヒサマツミドリシジミの食樹がウラジロガシであると明らかにされたのは、1970年の秋であり、1971年3月に創刊された「月刊むし」0号に藤岡知夫、小岩屋敏の両氏により、それまでの経緯と1970年11月の滋賀県愛知川での採卵の様子が載っている。

小杉谷山荘からウイルソン株の近くのウラジロガシのポイントまでは、1～1.5時間位かかったと思う。V字谷に張出したこの大きなウラジロガシに陽が当るのは、午前10時を過ぎてからである。朝陽に金緑色を輝かせた雄が必ず止まる枝先がある。この枝先をネットの射程距離に入れるには、この木に7～8m程登らねばならず、V字谷を流れる沢は20m程下にあり、足を滑らしたら、チョウチョウどころではなくなってしまふ。4本つなぎの竿をこの枝先の近くに置き、いつ、どこから来るか判らないのを待つのである。

屋久杉で知られる屋久島の原生林は本当に凄いものであり(1970年当時は凄かったが、今はどうなのであろうか)、普通の所では、どんなネットでも絶対に届かない。ヤクシマミドリが確実に採れるポイントは他にはなく、この場所を他人に明け渡さない為には、そこにずうっといるしか方法はないのであった。つまり、小杉谷山荘(この時、蝶屋は私を含め5人いた)を他人より早く抜け出し、木に登り、1日を過ごすのである。雄が飛来するのは、午前10時から午後

2時ぐらいまでであったと思う。結局こうして丸2日、木に登り、7♂♂のヤクシマミドリシジミを採った。

島根県隠岐島、鳥取県境港から島後の西郷まで船で4時間。ここ隠岐にキリシマミドリが産することが分かったのは、それ程前のことではない。昭和46年発行の京浜昆虫同好会の『新しい昆虫採集Ⅲ』には、その産地として隠岐は載っていない。(最初のみは1975年8月11日、大満寺山南側中腹で採集された。)少し前の『月刊むし』で、この隠岐でキリシマミドリが採れたことを知ったが、具体的な情報は全く無かった。ひとり長竿を担ぎ隠岐に向かったが、キリシマが得られる勝算は全く無かった。ここでは、長竿を持った人達は皆、釣り人であり、海に向かうのである。であるからして、民宿はほとんど海岸にあり、自転車を借りて、つなぎ竿を背に山に向かった私は、民宿の人から随分変な目で見られた。

キリシマのいそうなところを捜して、朝からさんざ叩いたが、全くダメ。戦意も喪失し、疲れきった頃、山陰むしの会の淀江賢一郎氏に会い、おおよそのポイントを聞きだした。そこは、その日立ち寄った場所であったが、キリシマの『キ』の字も見なかったのである。翌日(1977年8月13日)、早朝から頑張り、ついに最初の1♂をネットにしたのである。さらに翌14日(都万村横尾山)で2♂♂を追加し、帰り際何げなく叩いた樹から羽化したての♀がポトリッと落ちた時は、あまりの嬉しさに1人ニヤリとした。

これらのキリシマミドリシジミは私のコレクションの中で、数少ない自慢のゼフである。

既に、成虫を採集してしまったものであるならば、飼育により、より美しい、そしてより多くの標本を得るのも良いであろう。しかし、野外で飛んでいる姿を見たことも無い種類を飼育して、箱一杯に並べて、成虫を採集することを放棄してしまうようなことを、私は断固許せない。虫屋なら、いや蝶屋なら、成虫をネット・インして初めて、その蝶を採集したと思うべきである。

追記(本音): ああ、でもやっぱりビッカビッカのゼフを箱一杯に並べたい。飼育やらなければ、ダメだろうなあ……。今年の冬は採卵をしてみるか!
DONATAKA SAIRAN NO HOW TO WO DOUZO
OSIETE KUDASAINA.

短 報		15	
○	アサギマダラ		○
1988年9月4日	輪島市高洲山	2♂2♀目撃	松井正人
1988年9月10日	鹿島町石動山	1ex目撃	松森治彦
1988年9月18日	鹿島町碁石峰	1ex目撃	松森治彦
1988年9月26日	金沢市大平沢	1♂目撃	松井正人
○			○

会員の動き。しゃばの動き

7月19日松井一家、二俣へホテル狩り。山間の水田地帯へ車で乗り付け、ライトを消すと真っ暗闇。おもむろにウインカーを点けると、谷間の空間一杯に、イルミネーションが灯るらしい。この時期、山間の水田地帯にハイケボタルが多い。

松田氏、沖縄旅行のメンバーを募る。1人じゃどうも心もと無いらしく、「誰か一緒に行かないかなあ」なんて、もらしていたよ。

竹谷氏、カラスシジミを求めて、途中谷に通い詰めるが、未だに巡り合えない。

7月24日野中氏、3日前金沢に戻ったものの、じっとしてられず、さっそく中西氏を誘い出し、丸石谷、大杉谷と走り回る。

7月24日指田氏、オオイチモンジをネット・イン。ライバル6人がひしめく中、その日唯1頭の、しかもピカピカの雄を見事手中にした。

7月31日吉村氏、穂高から槍をへて双六へ。オオイチ、クモツキ、クモベニ、タカネ等、横目で眺めてきたらしい。

7月31日松田氏、上高地へ。オオイチモンジの滑空や吸水のアップ等をビデオに収めた。それにしても人間の多さには閉口したらしく、オオイチもうかうか吸水なんかしてられないと話していた。

7月31日野中氏、今度は松井氏を誘って白山方面へ。ゴマシジミにネットを振り、ムモンアカシジミの蛹をカメラに収める。

7月31日指田氏、またまたオオイチにトライ。今回は秘蔵のトラップを仕込んだおかげかどうか、22人のライバルを抑えて2♂をネット・イン。

8月3日野中氏、新車を購入。その名はギャラン。ラリー使用かと思っていたが、米国の後遺症が残ってオートマチック車となった。

8月5日吉村氏、成田からヨーロッパへ出発。家族3人でリッチな2週間を過ごす予定。もちろんネットと三角紙はしっかり持っていった。

8月6日松井氏、赤兎山でゴマをネット・イン。「大長山のガレ場もよさそうだ」とか言っていた。

8月6日山本氏、有峰方面でゴマを採集。わざわざ静岡から出向いた甲斐あってか、たくさん採れたらしい。食草はナガホらしい。

8月7日松井氏、白峰各地でゴマの調査。ゴマはボツって、暑いばかり。それにしても夏のスキー場は、ひたすら暑いの一文字。

8月8日松井氏、白木峰へ。ワレモコウの情報に勇んで出かけたものの、ワレモコウはパラボラの周囲のみの、うさんくさい代物だった。当然ゴマはボツ。ボツボツの没。

8月11日勝海氏、ムモンアカを求めて白山方面へ。百合谷で数頭採集出来たものの、砂御前、岩間ポイントは、目撃もできなかった。

8月13日竹谷氏、砂御前でゴマの撮影に成功。発表会は10月例会の予定。

田辺氏、オオムラサキを狙って四坊高坂へ。田中氏によれば金沢でも有数の産地、さぞかし面白い写真が撮れると期待していたものの、ポイントが分からず1頭も見ず。

8月13日ヒロコこと松井夫人、墓参りのついでにホテルの調査。時期も遅く冗談半分のウインカーだったらしいが、7月の時と同じように闇から星が降ってきた。

8月13日勝海氏、開田高原にヤマキチョウを狙う。マツムシソウに群れる羽化したての初々しい娘達は、次々にネットされたのだった。

8月13日野中、井村のナイターコンビ、釈迦道へ向かうが交通規制で市の瀬より奥へは入れず。結局、大杉谷のゲート前で点燈したが、やって来たのは、ヨコヤマヒゲナシカミキリ。

8月14日竹谷氏、2泊3日の予定で、白山北縦走路へ。植物大家のお供をしながら、ゆっくり歩いて行けば、あちこちからゴマが飛び出した。

8月14日井村氏、家族旅行と称し、パキタを狙って開田高原へ。ところが大雨に降られ、まったくの家族旅行になってしまった。

富山の片貝川南又谷にダムができるらしい。クモマツマキや、あのエビラフジ食のアサマシジミはどうなるのだろうか？？？？

8月17日井村氏、釈迦道で孤独のナイター。ヨコヤマは現れず、オニ、フチグロヤツボシ等を採る。

隠密行動の金子氏、有峰は大多和ゲート付近でナイター。フシキをものにする。

8月21日勝海氏、やはりムモンアカ狙い。砂御前ポイントで、2頭目をネット・イン。岩間ポイントは治山工事つぶれた様子。

吉村氏、網を持ってヨーロッパツアーに参加したものの、白いのや黄色いのばかりで、当てが外れた模様。成果はパルテノンでツクツクボウシを採ったくらい。

8月22日井村氏、孤独のナイター IN 釈迦道 PART II。何にも採れず。ドクガばかり。大ボヤキ。

8月25日松田氏、2年越しの夢が叶って単身沖縄へ。5泊6日の予定で、石垣、竹富、西表を回るらしい。

8月25日吉岡氏、休暇を取って宮崎は日南市へ。愛妻の実家ではすることも無く、ぼんやり過ごす。タテハモドキやナガサキアゲハが舞っても、ただぼんやり眺めていた。

8月26日小幡氏、アオスジアゲハの羽化写真にトライしようと、出羽町辺りで採蛹にいそしんだ。5個採集したものの、穴のあいた蛹も見つけ、採集した蛹に不安を感じていた。

8月28日松井氏、釈迦林道でアサギマダラのマーキング。吸水ポイントで難なく57頭をクリア。

8月30日田中氏、湯谷原でジャコウアゲハを採集。食草を捜しているのか、足元をフラフラ飛んでいた。

8月30日松田氏、無事沖縄より帰ってきた。向こうでは貸し自転車、貸しバイクを利用し、ビデオ撮りは快調。なかでも、各種の蝶が集まるセンダングサは、最高のビデオポイント。向こうの普通種がたくさん飛んでいて、面白かったらしい。

㊦あのアカエリがなんと1,000円！驚く無かれ、一時は20～30円のアカエリトリバネが、最近、値を上げている。ワシントン条約で取引が規制され、輸入が無くなったためらしい。

㊦8月31日小幡氏、岩間温泉へ撮影行。噴泉塔をバックにキベリを撮ろうとししばらく粘ったが、気に行ったものは撮れなかった。

㊦9月2日野中氏、白峰方面へ燈火の見回り。御前荘の燈火でヒゲナ〜ガカミキリを採集。今度ヒゲの長さを勝負しようなどと言っていた。

㊦2人のN氏こと野中、中西コンビ、奈良岳トラップ行の作戦を練っていたらしいが、どうも日和った感じ。

㊦9月3日吉岡氏、委託小荷物を携えて金沢入り。吉村宅で、密かにウスイロコノマ打倒(秘)作戦を練る。

㊦9月4日田辺氏、キベリを狙って有峰へ。湖畔でムモンアカシジミを採っていた越虫人によれば、今年はキベリの当たり年、ポイントも聞いたし、激写間違い無しと皮算用。ところがキベリは顔見せ程度で、終始シータテハの独り舞台。

㊦9月4日釈迦道はキベリのシーズン。この日も数人の虫屋が訪れた。蝶談会からは、とにかく採るの勝海氏と、最近体力の衰えを隠し切れない2人のN氏が参加した。

㊦田中氏、庭のキハダに見慣れぬ幼虫がいるのに気がついた。飼育中のカラスアゲハとも違い、ミヤマカラスアゲハに間違いならしい。

㊦井沢氏、ビザ切れでインドネシアから一時帰国。パリスを6亜種も採ってきた。

㊦9月8日野中氏、夜中のトラップ見回りは苦手と、サルメンをエサに井村氏を誘い出す。誘われた井村氏は、懐中電灯片手に真夜中の釈迦道周辺を徘徊したが、踏み跡ばかりで何にも発見できず。

㊦9月8日小幡氏、慰安旅行で美ヶ原へ。マツムシソウに揺れるキベリ、クジャク、アサギ、シータなどを写したが、どうも氏のイメージとは違い気にいらならしい。

㊦9月10日勝海氏、釈迦林道へ。キベリ多数を確認。

㊦9月14日松井氏、一里野で早朝の燈火回り。ところがカラスに先を越されたらしく、エモノはヒゲナガのヒゲダケ。

㊦9月14日勝海氏、再び釈迦林道。採りすぎたのかキベリは少なく。

㊦9月15日細沼氏、家族サービスの1日。秋晴れの下、噴泉塔まで歩いたところ、キベリ、アサギ、ツマジロといった秋の蝶が出迎えてくれた。

㊦9月16日野中氏、どしゃぶりの中、白山方面へ燈火の見回り。採卵用にと各種シタバを採集。ムラサキシタバはまだ早いのか、いなかった。

㊦9月18日野中氏の口車に乗せられた一行、ブナオ峠から赤マキコ山を目指した。この辺りはクマの要注意箇所。そこで一計を案じ、再びサルメンを餌に井村氏を誘いだしたらしい。効果はてきめんで、一行の賑やかさには登山者もびっくり。

㊦9月18日小幡氏、厚生年金会館でめでたくご結婚。ところが暇がとれず、旅行は冬までお預け。とりあえず、乗鞍辺りへ3日程行ってくる。

☛9月19日勝海氏、岩間へ向かうが工事で通行止。釈迦林道へ回るがキベリは少ない。フジの採卵に手を出すが、今年も少ないのか全くのスカ。

☛9月23日吉村氏、日帰りで三城牧場へ。各種のタテハに熱い思いを放ったが、答えてくれたのは、クジャク、キベリ、シータのみ。

☛9月23日野中氏、18日に仕込んだオサトラの見回り。ブナオ峠から赤マキコにかけてホソヒメがかかり、小躍りして喜ぶ。この分だと、順尾山辺りにも、いるかもしれない。

例会の記録

8月5日(金)城南管工2Fにて8時から開催。今回は帰国早々の野中氏に、スライドを交えてセント・ルイス、フロリダ、ロッキーのみやげ話をしてもらいました。「カナディアン・ロッキー、ウスバキの夢」は、次回になりました。ふるまい標本は、ホエブス、オエネイス等、多数あるとのことで、自宅まで取りにきてほ

しいそうです。みせびらかし標本は、松井氏の「石川のゴマシジミ」でした。これからシーズンなので、皆さんあちこちで頑張ってください。その他の話題を拾ってみると、珍品のヒメが冷凍庫で眠っている(指田)、沖繩へ誰か一緒に行かないか(松田)、なぜ僕はランに走ったか(井村)、最近ランに凝っている(中西)、蝶談会発会の経緯(嗟峨井)、今年は発会10年、イベントの計画は(野中)、野田山でアリゾロを見つけた(勝海)、8月22日からカナダ18日間の旅だ(中田)、関西勢が砂御前に入っている(山本)、ゴマは何処で採れる?(山岸)、ゴマはもっとあちこちで採れる(松井)、近頃はぜんぜん動けんわいね(高平)。

参加者は、井村、指田、勝海、嗟峨井、高平、近藤、松井、山岸、松田、中田、野中、澤田、小幡、山本(TEL参加)、中西(2人)の16人でした。中田氏は新入会員。

目次

松井正人：1988白山釈迦岳、キベリタテハは豊作か	1
勝海雅夫：1988乗鞍にて	2
吉岡泉：関西ギフ物語	3
指田春喜：ある日、標本箱を見ながら思うこと	5
編集部：会員の動き・しゃばの動き	8
編集部：例会の記録	11

とぶ NO.73

1988年10月7日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会
☎ 0762-58-2727
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所